

# エペソ人への書

## 第一章

一 神の御意によりてキリスト・イエスの使徒となれるパウロ、書をエペソに居る聖徒、キリストに在りて忠實なる者に贈る。二 願くは我らの父なる神および主イエス・キリストより賜ふ恩恵と平安と汝らに在らんことを。

三 讃むべきかな、我らの主イエス・キリストの父なる神、かれはキリストに由りて靈のもろもろの祝福をもて天の處にて我らを祝し、四 御前にて潔く瑕なからしめん爲に、世の創の前より我等をキリストの中を選び、五 御意のままにイエス・キリストに由り愛をもて己が子となさんことを定め給へり。六 是の愛しみ給ふ者によりて我らに賜ひたる恩恵の榮光に譽あらん爲なり。七 我らは彼にありて恩恵の富に隨ひ、その血に賴りて贖罪、すなはち罪の赦を得たり。八 神は我らに諸般の智慧と聰明とを與へてその恩恵を充しめ、九 御意の奥義を御意のままに示し給へり。一〇 即ち時満ちて經綸にしたがひ、天に在るもの、地にあるものを悉とくキリストに在りて一 つに歸せしめ給ふ。これ自ら定め給ひし所なり。二 我らは凡ての事を御意の思慮のままに行ひたまふ者の御旨によりて預じめ定められ、キリストに在りて神の産業と爲られたり。三 これ夙くよりキリストに希望を置きし我が神の榮光の譽とならん爲なり。三 汝等もキリストに在りて眞の言、すなはち汝らの救の福音をきき、彼を信じ

イ 哥前一・一を見よ	リ 弗五・二七	西 一・二二	六、五・二	三〇を見よ	二〇、九二六、二九、三三・九
ロ 哥後一・一を見よ	又 提後一・九を見よ	カ 羅八・二四を見よ	ヨ 弗一・一 徒一三・四八	ラ (徒二・三八)	マ 弗一・六、一四
ハ 徒一・八、二九を見よ	ニ 徒九・二三を見よ	ル 羅後二・二三、二四	見よ	ウ 可一・一五を見よ	ケ 西一・五を見よ
ニ 徒九・二三を見よ	ホ 西一・二	(弗二・一〇)	タ (太三・二七)	井 弗二・一〇	西 一・一八 (徒一三・二六)
ヘ 羅一・七を見よ	ト 哥後一・三を見よ	チ 弗一・九、一一 路一・二三 腓二・一三	レ 弗一・二、二四	ノ 弗一・五を見よ	弗 四・二二
チ 弗一・二〇、二六、三二、三〇、六・二二	三・二〇、六・二二	来 二・四 (哥前一・二一 西一・二〇)	ソ 西一・二四	オ 羅九・一一を見よ	
ワ 弗四・二、二五、一	ナ 弗一・二四 哥前一・一	ネ 徒二〇・二八を見よ	ツ 羅二・四を見よ	ク 弗一・五を見よ	
		ナ 弗一・二四 哥前一・一	ク 弗一・五を見よ	ヤ 弗一・一八 (申四・	





二〇 同じ國人また神の家族なり。二〇 汝らは使徒と預言者との基の上に建てられたる者にして、キリスト・イエス自らその隅の首石たり。二二 おのおのの建造物、かれに在りて建て合せられ、彌増に聖なる宮、主のうちに成るなり。

二三 汝等もキリストに在りて共に建てられ、御霊によりて神の御住となるなり。

### 第三章

一 この故に汝ら異邦人のためにキリスト・イエスの囚人となれる我パウロ——二 汝等のために我に賜ひたる神の恩恵の經綸は汝ら聞きしならん、三 即ち我まへに簡單に書きおくりし如く、この奥義

は黙示にて我に示されたり。四 汝等これを讀みてキリストの奥義にかかはる我が悟を知ることを得べし。五 この

奥義は今御霊によりて聖使徒と聖預言者と共に顯されし如くに、前代には人の子らに示されざりき。六 即ち異邦人

が福音によりキリスト・イエスに在りて共に世嗣となり、共に一體となり、共に約束に與る者となる事なり。

七 我はその福音の役者とせらる。これ神の能力の活動に隨ひて我に賜ふ恵の賜物によるなり。八 我は凡ての聖徒

のうちの最小き者よりも小き者なるに、キリストの測るべからざる富を異邦人に傳へ、九 また萬物を造り給ひし

神のうちに世々隠れたる奥義の經綸の如何なるもの乎をあらはす恩恵を賜はりたり。一〇 いま教會によりて神の豊

なる智慧を天の處にある政治と權威とに知らしめん爲なり。二 これは永遠より我らの主キリスト・イエスの中

に、神の定め給ひし御旨によるなり。三 我らは彼に在りて彼を信する信仰により、臆せず疑はずして神に近づく

ことを得るなり。三 されば汝らに請ふ、わが汝等のために受くる患難に就きて落膽すな、是なんぢらの譽なり。

イ 腓三・二〇(來一・二) ホ 哥前三・九を見よ  
 又 弗三・一七を見よ  
 カ 弗三・四、九、羅一・六  
 ナ 加三・二九  
 コ 羅一・一、三三を見よ  
 サ 弗一・一を見よ  
 二(二二、二三) ヘ 哥前三・一一  
 ル 徒二三・一八、弗四  
 オ 哥前二・七  
 キ 來三・六、四・二六、  
 一〇・二〇、約三・  
 一、加六・一〇を見よ  
 ト 路二〇・一七、詩一  
 ヨ 哥前二・一〇を見よ  
 エ 弗一・三を見よ  
 一〇・二〇、約三・  
 一、ハ 哥前二・二八を見  
 一八・二二、彼前二  
 ヨ 哥前二・一〇を見よ  
 エ 弗一・二二、六・一  
 二、二八  
 ユ 哥後三・四  
 二(太一・一八、黙二  
 チ 哥前三・一六を見よ  
 テ 弗一・一〇、三・九  
 ヲ 哥後二・一六  
 ヲ 弗二・一八を見よ  
 一・二四、哥前三・  
 リ 哥前三・九、一六を  
 ワ(來一三・二二、彼前  
 ソ(哥後二・一六)  
 ツ 弗二・二〇  
 ノ 弗三・二、羅一・  
 一、二、フ 弗三・三を見よ  
 ア(彼前二・一二、弗  
 ミ 哥後四・一

シ(群二・一〇) 九、一〇 哥後一三 本(羅八・三五、三九) 一六 弟一・五を見よ 井(哥前二・七、二一 三・九) 弟一・二二を見よ  
 一五 弟三・八を見よ 五(弟二・二二) へ(弟一・二二) カ羅八・二八を見よ ツ(西三・二五) 弟一・二二を見よ  
 一四 弟一・二八 又西二・七 (哥前三・ 三) 弟一・二二を見よ ヲ(弟二・二八を見よ) ノ(弟三・二二) 弟一・二二を見よ  
 一三 弟七・二二を見よ 六(六) 弟一・二二を見よ ナ(弟一・二二・四以下) オ(詩六八・一八) 弟一・二二を見よ  
 一二 弟四・一三 西一・ 一 弟一・二二を見よ リ(弟三・七を見よ) 弟一・二二を見よ ク(士五・二二) (西二・ 二〇、二二) 弟一・二二を見よ  
 一一 (哥前一六・ 一) 弟一・二二を見よ ヲ(哥後九・八) 弟一・二二を見よ ヲ(約三・一三) 弟一・二二を見よ  
 一〇 (弟一・一八、九) 弟一・二二を見よ ヲ(弟一・一八、九) 弟一・二二を見よ ヲ(約三・一三) 弟一・二二を見よ  
 九 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 八 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 七 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 六 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 五 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 四 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 三 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 二 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ  
 一 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ 弟一・二二を見よ

一五四

一四この故に我は天と地とに在る諸族の名の起るところの父に跪ぎて願ふ。一六父その榮光の富にしたがひ

一七て、御靈により力をもて汝らの内なる人を強くし、一七信仰によりてキリストを汝らの心に住はせ、汝らをして愛

一八に根ざし、愛を基とし、一八凡ての聖徒とともにキリストの愛の廣さ・長さ・高さ・深さの如何許なるかを悟り、

一九その測り知る可からざる愛を知ることを得しめ、凡て神に満てる者を汝らに満しめ給はん事を。

二〇願くは我らの中にはたらく能力に隨ひて、我らの凡て求むる所、すべて思ふ所よりも甚く勝る事をなし得

二一る者に、二一榮光世々限りなく教會によりて、又キリスト・イエスによりて在らんことを、アマメン。

第四章

一されば主に在りて囚人たる我なんぢらに勸む。汝ら召されたる召に適ひて歩み、二事毎に謙遜と  
 二 柔和と寛容とを用ひ、愛をもて互に忍び、三平和の繋のうちに勉めて御靈の賜ふ一致を守れ。四體

五は一つ、御靈は一つなり。汝らが召にかかはる一つ望をもて召されたるが如し。五主は一つ、信仰は一つ、バプ

六テスマは一つ、六凡ての者の父なる神は一つなり。神は凡てのものの上に在し、凡てのものを貫き、凡てのもの

七の内在したまふ。七我等はキリストの賜物の量に隨ひて、おのおの恩恵を賜はりたり。ハされば云へることあ

八り「かれ高き處に昇りしとき、多くの虜をひきぬ、人々に賜物を賜へり」と。九既に昇りしと云へば、まづ地の

九低き處まで降りしにあらずや。一〇降りし者は即ち萬の物に満たん爲に、もろもろの天の上に昇りし者なり。二彼

一〇は或人を使徒とし、或人を預言者とし、或人を傳道者とし、或人を牧師・教師として與へ給へり。三これ聖徒を









一 西三・二〇 (撒六・七八・四二二・六  
 二〇、三三・二二) 提後三・一五  
 二 出二〇・二二 申五 西三・二二 彼前二  
 二六 二八 (提前六・一  
 二西三・二一 多二・九)  
 三 (創一八・一九申六 申五・二二  
 七、一一・一九詩 又哥前二・三を見よ  
 七八・四二二・六 七(加一・二〇)  
 八(利二五・四三) 二(約一三・一三)  
 九(約一三・一三) 十(約一三・一三)  
 十一(約一三・一三) 十二(約一三・一三)  
 十三(約一三・一三) 十四(約一三・一三)  
 十五(約一三・一三) 十六(約一三・一三)  
 十七(約一三・一三) 十八(約一三・一三)  
 十九(約一三・一三) 二十(約一三・一三)  
 二十一(約一三・一三) 二十二(約一三・一三)  
 二十三(約一三・一三) 二十四(約一三・一三)  
 二十五(約一三・一三) 二十六(約一三・一三)  
 二十七(約一三・一三) 二十八(約一三・一三)  
 二十九(約一三・一三) 三十(約一三・一三)  
 三十一(約一三・一三) 三十二(約一三・一三)  
 三十三(約一三・一三) 三十四(約一三・一三)  
 三十五(約一三・一三) 三十六(約一三・一三)  
 三十七(約一三・一三) 三十八(約一三・一三)  
 三十九(約一三・一三) 四十(約一三・一三)  
 四十一(約一三・一三) 四十二(約一三・一三)  
 四十三(約一三・一三) 四十四(約一三・一三)  
 四十五(約一三・一三) 四十六(約一三・一三)  
 四十七(約一三・一三) 四十八(約一三・一三)  
 四十九(約一三・一三) 五十(約一三・一三)  
 五十一(約一三・一三) 五十二(約一三・一三)  
 五十三(約一三・一三) 五十四(約一三・一三)  
 五十五(約一三・一三) 五十六(約一三・一三)  
 五十七(約一三・一三) 五十八(約一三・一三)  
 五十九(約一三・一三) 六十(約一三・一三)  
 六十一(約一三・一三) 六十二(約一三・一三)  
 六十三(約一三・一三) 六十四(約一三・一三)  
 六十五(約一三・一三) 六十六(約一三・一三)  
 六十七(約一三・一三) 六十八(約一三・一三)  
 六十九(約一三・一三) 七十(約一三・一三)  
 七十一(約一三・一三) 七十二(約一三・一三)  
 七十三(約一三・一三) 七十四(約一三・一三)  
 七十五(約一三・一三) 七十六(約一三・一三)  
 七十七(約一三・一三) 七十八(約一三・一三)  
 七十九(約一三・一三) 八十(約一三・一三)  
 八十一(約一三・一三) 八十二(約一三・一三)  
 八十三(約一三・一三) 八十四(約一三・一三)  
 八十五(約一三・一三) 八十六(約一三・一三)  
 八十七(約一三・一三) 八十八(約一三・一三)  
 八十九(約一三・一三) 九十(約一三・一三)  
 九十一(約一三・一三) 九十二(約一三・一三)  
 九十三(約一三・一三) 九十四(約一三・一三)  
 九十五(約一三・一三) 九十六(約一三・一三)  
 九十七(約一三・一三) 九十八(約一三・一三)  
 九十九(約一三・一三) 一百(約一三・一三)

の夫を敬ふべし。

第六章

一 子たる者よ、なんぢら主にありて兩親に順へ、これ正しき事なり。二「なんぢの父母を敬へ(これ  
 約束を加へたる誠命の首なり) 三 然らば、なんぢ幸福を得、また地の上に壽長からん」 四 父たる者  
 よ、汝らの子供を怒らすな、ただ主の薫陶と訓戒とをもて育てよ。

五 僕たる者よ、キリストに従ふごとく畏れをののき、真心をもて肉につける主人に従へ。六 人を喜ばする者  
 の如く、ただ目の前の事のみを勤めず、キリストの僕のごとく心より神の御旨をおこなひ、七 人に事ふる如くせ  
 ず、主に事ふるごとく快くつかへよ。八 人は奴隷にもあれ、自主にもあれ、各自おこなふ善き業によりて主より  
 其の報を受くることを汝ら知ればなり。九 主人たる者よ、汝らも僕に對し斯く行ひて威嚇を止めよ、そは彼らと  
 汝らとの主は天に在して偏り視給ふことなきを汝ら知ればなり。

一〇 終に言はん、汝ら主にありて其の大能の勢威に頼りて強かれ。二 悪魔の術に向ひて立ち得んために、神の  
 武具をもて鎧ふべし。三 我らは血肉と戦ふにあらず、政治・權威、この世の暗黒を掌どるもの、天の處にある惡  
 の靈と戦ふなり。四 この故に神の武具を執れ、汝ら惡しき日に遭ひて仇に立ちむかひ、凡ての事を成就して立ち  
 得んためなり。五 汝ら立つに誠を帯として腰に結び、正義を胸當として胸に當て、六 平和の福音の備を靴として  
 足に穿け。七 この他なほ信仰の盾を執れ、之をもて惡しき者の凡ての火矢を消すことを得ん。八 また救の胃およ

一八 び御靈の劍、すなはち神の言を執れ。一八 常にさまさまの祈と願とをなし、御靈によりて祈り、また目を覺して凡ての聖徒のためにも願ひて倦まされ。一九 又わが口を開くとき、言を賜はり、憚らずして福音の奥義を示し、二〇 語るべき所を憚らず語り得るやうに、我がためにも祈れ、我はこの福音のために使者となりて鎖に繋がれたり。

二二 愛する兄弟、主に在りて忠實なる役者テキコ、我が情況、わが爲す所のことを具に汝らに知らせん。二三 われ彼を遣すは、我が事を汝らに知らせて、汝らの心を慰めしめん爲なり。

二三 願くは父なる神および主イエス・キリストより賜ふ平安と信仰に伴へる愛と、兄弟たちに在らんことを。

二四 願くは朽ちぬ愛をもて我らの主イエス・キリストを愛する凡ての者に御恵あらんことを。

エペソ人への書 をはり

イ 來四・一二 (賽四九・二)	西四・二	へ 可一三・三三を見よ	又 哥後三・一二を見よ	徒二八・二〇 西四・四 (弗三・一 腓一・七)	ヨ 西二・二
ロ 來六・五 弗五・二六	二 腓四・六 撒前五・一七 猶二〇	ト (提前二・一)	ル 弗三・三	四 (弗三・一 腓一・七)	タ 羅一五・三三を見よ
ハ 路一八・一を見よ	ホ 羅八・二六、二七を見よ	チ 徒一・一四を見よ	テ 哥後五・二〇 (門一〇)	カ 二二・二二 西四・七	ト 加六・一六 (彼前五・八)
		リ 西四・三 (哥後六・一一)	ワ 徒二一・三三を見よ	レ (加五・六 撒前五・八)	

一・四 或は四の「潔く」の下を「瑕なく愛にらしめん爲に」

一・二三 或は「萬の物に在りて萬の物に満ち給ふ者」と譯す。

三・ 或は「全家」と譯す。

と譯し、五なる「愛をもて」